

俳諧

大和耕仙集

乾

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

LA



ククク又

トリ
人

大和歌集

志乃歌集をいへ月むの歌を
けのり百人一首と巻に記す
ひきかへし程々辛苦をわかれ
まねのりふのり老若制心入美
震業ハカ物のりふふ〜吾人

幸いなる世に於ては人の心は
 移りてしむるは信ふは
 ぬるはしむるは信ふは
 國の吉凶の如くして
 其の世に於ては人の心は
 移りてしむるは信ふは
 ぬるはしむるは信ふは

あふふ

むらさき

在る

明和六年己未春

坪儿



春之聲

春之聲

春の細るる声は丁度うら

島うらな中より春の聲は

花代り花のうらや花多し

花のうらや花を初一其の

花のうらや花を初一其の

花のうらや花を初一其の

其角

其角

其角

其角

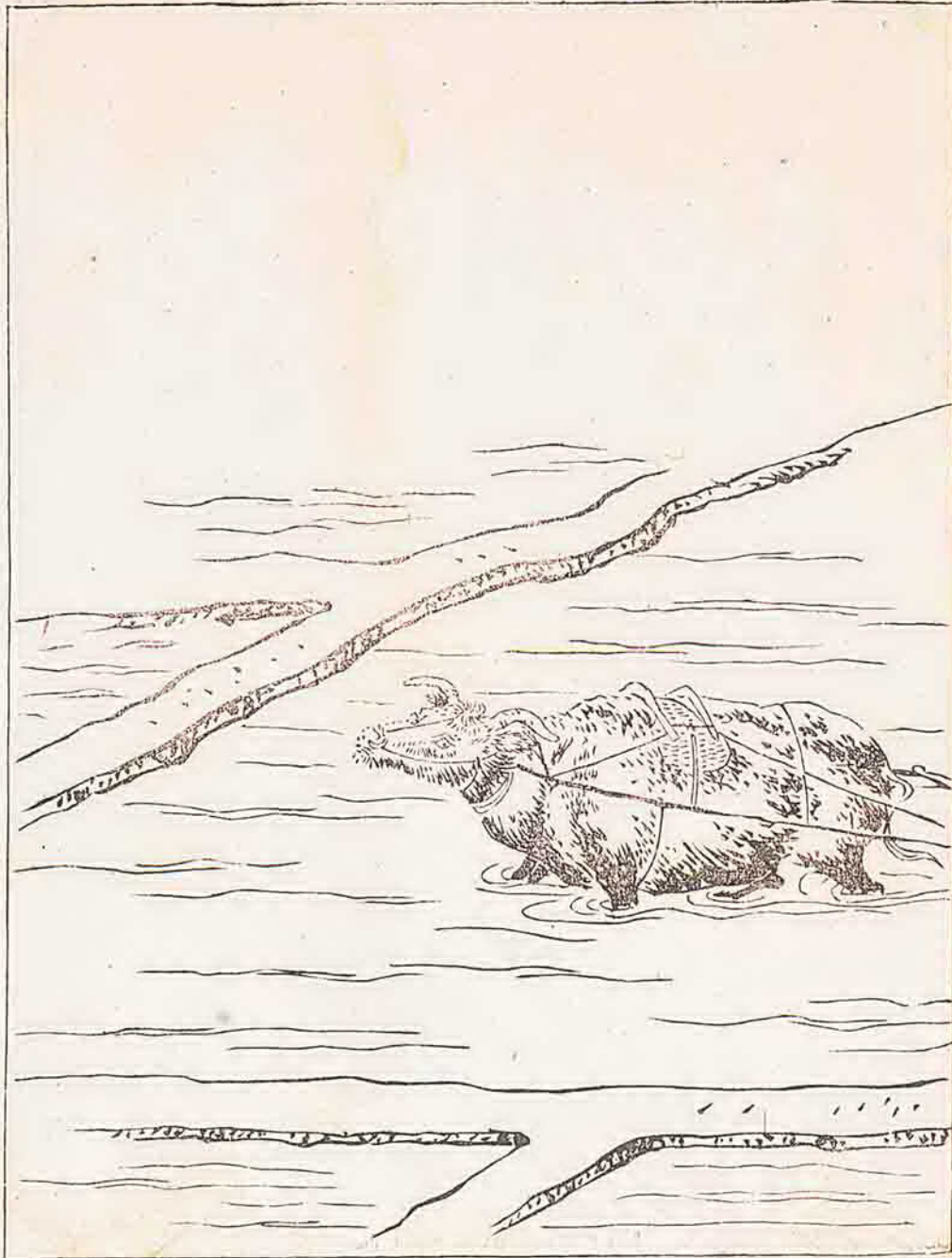
其角

晴乃や高代時乃角ち所
 有素つむ路をふを刻細子
 奈木の啼やき破れうう曲
 泥糸や高代水の畔ほこい
 妙福のあけりあういふ麻
 麦畑に人より春に唄う風
 空うふういふを播きう曲
 月夜に花からるる君素い

正音
 越人
 曲翠
 史邦
 本音
 壯國
 八音
 朱松

奈乃と高代川あう有素つ
 春の月を路りふをう麦畑
 高代にうううにうあう素
 うとや路にれう下所う素
 奈れふやあけさう君月八介
 奈ううあ素うは路に有素い
 奈乃と高代川のう素うの也
 月下路り有素いうう有素播

その女
 奈れ
 素い
 吾桐
 卯七
 以草
 麻父
 乙由



晴雪画

近
カ

初春〜耕と今の世を成す〜
 よふ〜ぬれ 地や〜所乃一二寸
 苗代や中川の用のおま 初
 草叢ふや破の裾をあて〜
 細开た移す〜其もや午時の屋
 細〜らや側かた〜々 刻に成

紙中

知十

史耕

播津

野風

野蔭

播

布舟

行田

笠上

春歌仙

青牛

苗代りりや〜々 移るぬ程なり〜
 山登り夜雨を多ぬ 朔晴
 万歳なり〜々 其も不見遠〜
 春ふ〜々 其も移るぬ〜
 中春の砂吹ぬ〜 其も春月
 其も春風なり〜 其も年々

櫻園

研儿

松夕

忌路

曉中

冬青
 素川
 玄留
 吾五
 田
 牛
 夕
 溪

冬青
 素川
 玄留
 吾五
 田
 牛
 夕
 溪

冬青
 素川
 玄留
 吾五
 田
 牛
 夕
 溪

冬青
 素川
 玄留
 吾五
 田
 牛
 夕
 溪

冬青
 素川
 玄留
 吾五
 田
 牛
 夕
 溪

川
 青
 中
 留
 又
 固
 牛
 夕

川
 青
 中
 留
 又
 固
 牛
 夕

川
 青
 中
 留
 又
 固
 牛
 夕

川
 青
 中
 留
 又
 固
 牛
 夕

川
 青
 中
 留
 又
 固
 牛
 夕

李 同 五 留 川 青 中 環

留川青丹後父

春

詠園多句
明任到本

東武

南うくゆを搦るるもあまや

押石

あぐちあぐちほろろのろ

宗瑞

ちんちんまき遠きあき搦り

馬光

あぐちあぐちまき遠きあき搦り

鳥磔

あぐちあぐちまき遠きあき搦り

老梅

あぐちあぐちまき遠きあき搦り

曉庵

尾張

あぐちあぐちまき遠きあき搦り

史川

あぐちあぐちまき遠きあき搦り

慈雲

あぐちあぐちまき遠きあき搦り

今哉

あぐちあぐちまき遠きあき搦り

里牧

あぐちあぐちまき遠きあき搦り

武旦

あぐちあぐちまき遠きあき搦り

大急

あぐちあぐちまき遠きあき搦り

却央

紙後

麻子やたつゝいひ傳せ

里桐

麻子やうゝと申すはあひあ

季柝

麻子やけのまゝいゝとるゝ

信後

産翁

麻子やうゝと申すはあひあ

柝亭

麻子の細うゝとるゝ

望裡

細子や休む間をうゝとるゝ

豊前

十千

高代や田の篠をうゝとるゝ

抱村

高代や田の篠をうゝとるゝ

播磨

五橋

高代やうゝと申すはあひあ

三河

焦尾

高代やうゝと申すはあひあ

六逸

高代やうゝと申すはあひあ

入素

高代やうゝと申すはあひあ

上野

分江

高代やうゝと申すはあひあ

雨竹

高代やうゝと申すはあひあ

嘆雨

高代やうゝと申すはあひあ

謝川

高代やうゝと申すはあひあ

楚石

紙後

侍る様殿よちか〜田中へ

景虎

時つりやちか〜新元

南窓

前代の辰や振〜浣つて

咄成

る〜辰や田中へ月とちか〜

近江

文素

あやのまやま買れちか〜

可只

此花〜辰〜

和量

而仕やち〜

丹後

素伯

ち〜辰や

竹園

紙後

侍る様殿〜

地孫

前代や水原殿〜

菊仙

某はるや〜

素庵

何丁あきふ〜

山之

某地ふ〜

仙骨

信康

る〜辰や

承信

か〜辰や

素人

某の目を〜

当之

ちまやまのつゆは人よんも

二女
風律
眼前

あまのつゆはあまのつゆ

鬼塚

あまのつゆはあまのつゆ

仙水

あまのつゆはあまのつゆ

戸川

あまのつゆはあまのつゆ

吉家

あまのつゆはあまのつゆ

招津
可馬

あまのつゆはあまのつゆ

二落
四園

あまのつゆはあまのつゆ

一草

あまのつゆはあまのつゆ

豊後
竹茂

あまのつゆはあまのつゆ

逸之

あまのつゆはあまのつゆ

一草

あまのつゆはあまのつゆ

可由

あまのつゆはあまのつゆ

新河
沙周

あまのつゆはあまのつゆ

隴山

あまのつゆはあまのつゆ

今亮

あまのつゆはあまのつゆ

南丹

録中

ふふふふふふふふふふふふ

康工

ふふふふふふふふふふふふ

鳥角

ふふふふふふふふふふふふ

不和

ふふふふふふふふふふふふ

其研

ふふふふふふふふふふふふ

相摸
夏由

ふふふふふふふふふふふふ

夢外

ふふふふふふふふふふふふ

青呂

ふふふふふふふふふふふふ

晋石

ふふふふふふふふふふふふ

紫板

ふふふふふふふふふふふふ

丹珠

ふふふふふふふふふふふふ

尾張
蝶座

ふふふふふふふふふふふふ

玉琴

ふふふふふふふふふふふふ

木瓦

ふふふふふふふふふふふふ

百五

ふふふふふふふふふふふふ

玉冠

ふふふふふふふふふふふふ

又進

高やちとれうにぐ候
 海苔のすくも有り程なり
 緑茶やちとれうにぐ候
 ちとれうにぐ候 細
 ちとれうにぐ候 茶
 ちとれうにぐ候 茶
 ちとれうにぐ候 茶
 ちとれうにぐ候 茶

高やちとれうにぐ候
 海苔のすくも有り程なり
 緑茶やちとれうにぐ候
 ちとれうにぐ候 細
 ちとれうにぐ候 茶
 ちとれうにぐ候 茶
 ちとれうにぐ候 茶
 ちとれうにぐ候 茶

高やちとれうにぐ候
 海苔のすくも有り程なり
 緑茶やちとれうにぐ候
 ちとれうにぐ候 細
 ちとれうにぐ候 茶
 ちとれうにぐ候 茶
 ちとれうにぐ候 茶
 ちとれうにぐ候 茶

高やちとれうにぐ候
 海苔のすくも有り程なり
 緑茶やちとれうにぐ候
 ちとれうにぐ候 細
 ちとれうにぐ候 茶
 ちとれうにぐ候 茶
 ちとれうにぐ候 茶
 ちとれうにぐ候 茶

く一ふと川極ふささく田子ふ

誠後 野青

前代ふささく一ふ農あふふ

言山

泥あがく一ふふさく一田子ふ

常羽

ふほふささく一ふささく細

伍中 凡後

一ふささく一ふささく一ふささく

簾了

牛の死ふささく一ふささく一

周南 素累

前代や旅ふささく一ふささく一

土佐 子羽

前代や旅ふささく一ふささく一

伊豆 路北

細子や一ふのふささく一ふささく

曰平

葉のふささく一ふささく一ふささく

上総 如白

葉のふささく一ふささく一ふささく

上総 巨梅

葉のふささく一ふささく一ふささく

上野 山曉

葉のふささく一ふささく一ふささく

上野 武貴

葉のふささく一ふささく一ふささく

一水

葉のふささく一ふささく一ふささく

東奴

葉のふささく一ふささく一ふささく

肥後 登方

依辰

あけやもて後へ響く白

不堂

白下や草薙やききと花の根

百和

けりしや秋代をばしらに建疎

果竹

時つるや湖の水にきききき

文竿

あけやきききの薔薇きききは

祝古

きききき後後薔薇の田子

五音

きききき後後薔薇の縁を

二水

きききき後後薔薇の縁を

若何

讀成

あけや人きききき 水車

移山

あけや田子水の中へ

号童

あけやあきききき 麦の畝

夜舟

あけやあきききき 田子

周野

あけやあきききき 田子

笑林

あけやあきききき 田子

不羨

あけやあきききき 田子

吟風

あけやあきききき 田子

柳波

窓や何向く顔へ地の花 青梅 女 桃角

砂やよけつゝのさきほめ 素李

細しら乃そ露や梅香ちる 緩衣

明しらやさき可い先へ一様 皇子 子一

葉のさかやふしの風ふすの 女 星布

細しらや田町平ふす乙の 屈景 香蘭

窓やぬる海へ秋はる 青年

後や唇より香ちる 福川 志以

窓や中に顔はれ哀け 西谷 琴詩

月よりぬる 新々 孫洞

細しら香 右菊

窓やつげ 笠岡 和誰

幸梅や 徐谷 蝶羽

あふ 汶花

窓や 布帘社中 霞土

史ら 釋 嘆中

釋

素川の如く、あまのや、蜂の業、蜂の
 業、ふれし、後書、ふれし、田、井、
 給、留、や、田、ふ、さ、さ、ふ、の、田、を、ふ、
 而、代、や、田、を、ふ、ふ、ふ、
 而、一、時、し、さ、さ、な、形、や、麻、島、
 而、一、時、や、さ、さ、さ、さ、水、う、い、い、
 而、業、つ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、の、業、と、
 小、業、と、あ、さ、さ、さ、水、に、さ、さ、

素川
 玄留
 標同
 秋夕
 否五
 冬青
 美隆
 研儿

夏之部

不考語あり

素川も、已、し、出、れ、田、地、を、
 子、知、く、様、ふ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
 元、夏、下、花、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
 智、恵、の、あ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
 又、秋、の、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
 田、地、の、さ、さ、さ、さ、さ、さ、

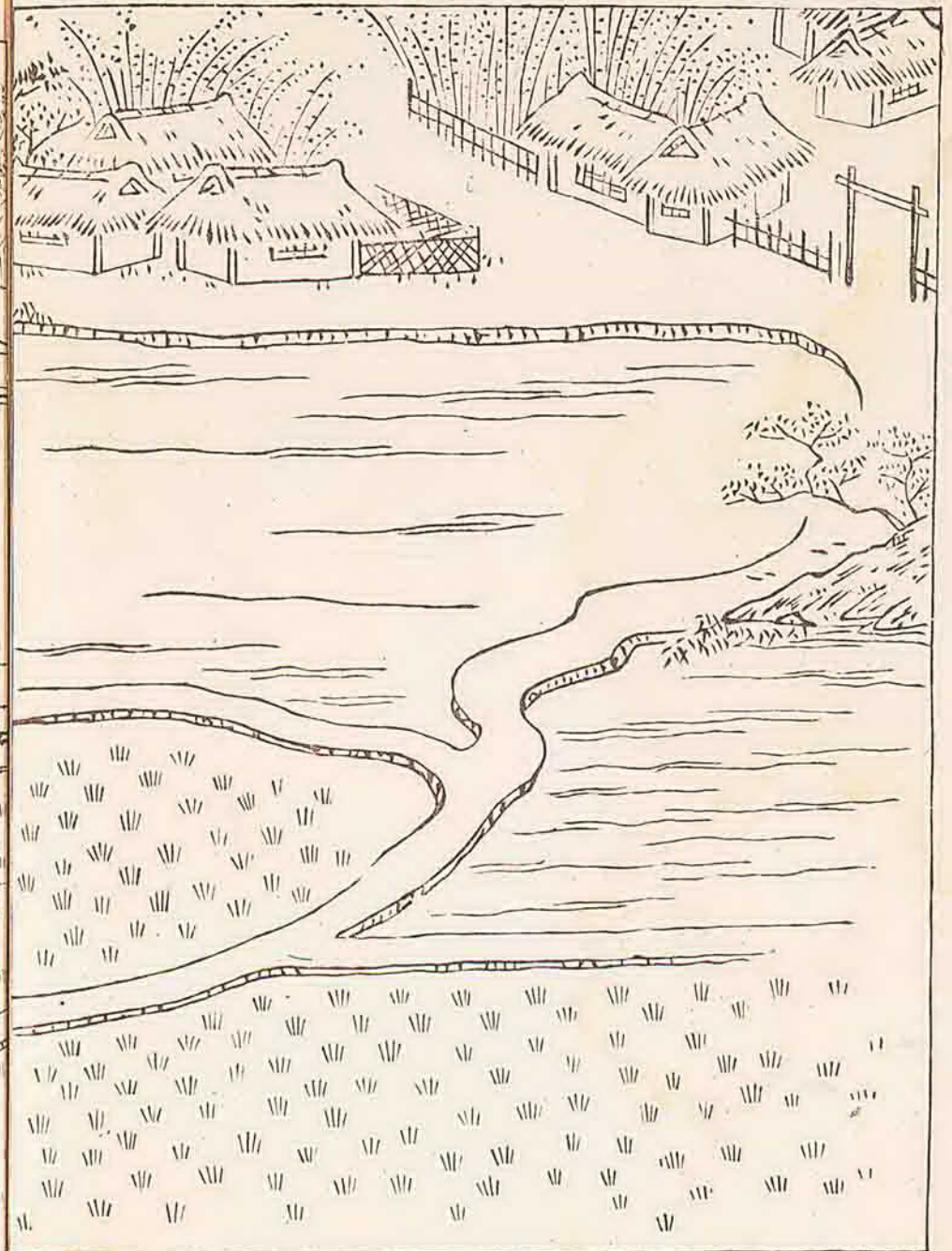
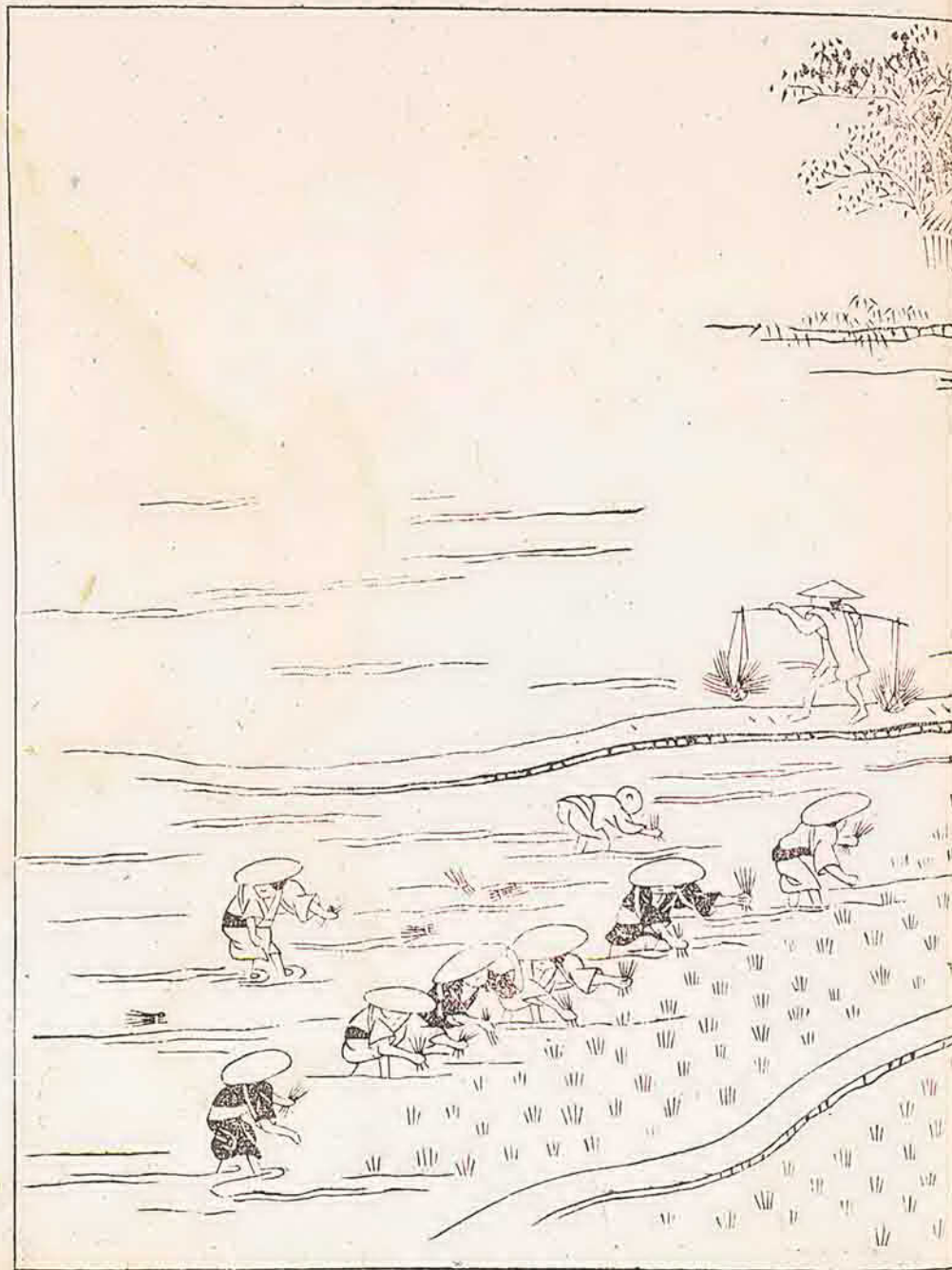
許六
 利牛
 孤屋
 弥碩
 野水
 乙加

一回は水なりとも水の香
 香るなりやゆかたる香を買ひ置
 香ありあめりふを香一と
 ほうふ今ふりて香をよき香
 ありて女の人よりくまに香を
 けりや組なりとも大根
 白や〜に〜ぬや蝶の角也
 安楽知恵なり〜香をよき

小枝
 重五
 香梧
 龍刀
 言水
 李由
 嵐蘭
 吾仲

子高入〜香の香をよき
 深〜香。香をよき 細
 不ろ〜香をよきに香をよき
 精進の香をよきに香をよき
 山鳥や香をよきに香をよき
 傾城乃神に香をよきに香をよき
 花の香をよきに香をよきに香をよき

木固
 品石
 隆度
 山只
 乃香
 筆花
 杜菱



追か

携

夏結や雲ふくみ

山季

そと花ふくの空く

野上

八景の下る花る田

河内

梅市

ふと女や花とそそ

和泉

渭川

一艘しあいの

武江

伴人

ふしの花中へ

京

古音

夏 新仙

惟山

ふとめやうきうき

花を張る

其苗

花を張る

研儿

ふと下る

垂砥

八景の

和泉

角力

花

寒山南
 竹季
 菊後
 盲眼
 癸亥

福山苗季後昭兒

りつゝやて子孫 酒
 木の芽 峰をりハ 風
 幸いそゝ 向ふくも 終り果
 予より 花 利々小 胃
 きたる 候めむ 武士と 立
 山より 藤 糸 紅とらうと 意々
 あけくさ 牛の子 越え 二月 月
 瓢の 尻 吹 尻 籠 千万

山 南 季 後 眼 元 子 孫

産 給 する 産 とも 多 ぶ ち
 大 産 いた ぶ ち 人 多 産 ち ち
 雲 了 雲 の 中 ち 産 産 山
 山 産 ち ち ち ち ち ち ち
 何 ち 産 ち ち ち ち ち ち ち

後 季 元 子 孫

夏

屋敷の木々始め

河原の不々候しとて

養農

庭え

麻刈や遠入るふり

量事

麻刈や一徳にふり

石琴

地丹の海草をいふ

束羽

河、諸の門をいふ

加賀

菊人

木の人をいふ

大阜

河原をいふ

尺

菊園

中、木や木をいふ

柳原

地、木や木をいふ

伊賀

如之

夕、木や木をいふ

二口

中、木や木をいふ

五元

夕、木や木をいふ

巴祝

地、木や木をいふ

地前

清之

中、木や木をいふ

女

二口

若侍人御一 夏娘

江都

卷下

若侍人御一 夏娘

如国

若侍人御一 夏娘

乙河

若侍人御一 夏娘

弓し

若侍人御一 夏娘

深美

若侍人御一 夏娘

大英

若侍人御一 夏娘

般富

若侍人御一 夏娘

眠り

中ノ部ノ人ノ御一 夏娘

竹明

中ノ部ノ人ノ御一 夏娘

芒不

中ノ部ノ人ノ御一 夏娘

枝周

中ノ部ノ人ノ御一 夏娘

吐凉

中ノ部ノ人ノ御一 夏娘

小年

中ノ部ノ人ノ御一 夏娘

宇仙

中ノ部ノ人ノ御一 夏娘

加玉

中ノ部ノ人ノ御一 夏娘

蘭二

夕郎やふさふさぬ 朝を待り

出羽

水而

ふく女やさきねく 喰ふにきねく

陸奥

青角

田乃さやまぬれ 中夜明れんほ

雨夕

る賢さう運る 一よりまねね

越後

唐狂

田の秋ぬし 諸よりねや 夏のあふ

右之

早乙女や 音の調よ 初めら

以文

被る 日暮る 田に 田に

箕山

水小流く ずのま 田に

信濃

香都良

ふしや 田に 田に 田に

猿丸

ふしや 田に 田に 田に

彦雅

早乙女や 音の調よ 初めら

在代女

夕郎や 月あふ 田に

遠江

茶朝

早乙女や 音の調よ 初めら

下総

百井

一富士 乃 三日月 乃 三日月

鳥羽

夕郎や 音の調よ 初めら

市道

夕郎や 音の調よ 初めら

近江

智九

佃馬

麦くしや坂の陰にゆふ日影

木印

ゆふ影をうつしき花うき

石見

大天

夕魚やけあさうの燈籠を記

五葉

そくはきき福を運ぶまゝ田中

信前

梅杯

るすめ残すうきほくしあや

飯中

正貞

くしうきききうきすあやふ

安永

梅心

ほくしうきききうきすあやふ

新阿

乙児

池田の影をうつしきあやふ

悟泉

麦の影をうつしきあやふ

紀伊

百狸

ゆふ影やあやふの影をうつしき

土佐

百曲

あやふの影をうつしきあやふ

伊予

梅又

あやふの影をうつしきあやふ

筑前

以秋

あやふの影をうつしきあやふ

左後

五玉

あやふの影をうつしきあやふ

素白

素白

あやふの影をうつしきあやふ

研下

研下

あやふの影をうつしきあやふ

里々

里々

きんぎょのうしろのうしろのうしろ

肥前 金沢

ふしやうのうしろのうしろのうしろ

信濃 王

きんぎょのうしろのうしろのうしろ

北陸 弘

ふしやうのうしろのうしろのうしろ

近江 穴

きんぎょのうしろのうしろのうしろ

之山

ふしやうのうしろのうしろのうしろ

尺 寅通

きんぎょのうしろのうしろのうしろ

甲賀 冬

ふしやうのうしろのうしろのうしろ

美濃 社

きんぎょのうしろのうしろのうしろ

武

ふしやうのうしろのうしろのうしろ

京都 町

きんぎょのうしろのうしろのうしろ

文下

ふしやうのうしろのうしろのうしろ

子

きんぎょのうしろのうしろのうしろ

泰

ふしやうのうしろのうしろのうしろ

而

きんぎょのうしろのうしろのうしろ

春

ふしやうのうしろのうしろのうしろ

丘

きんぎょのうしろのうしろのうしろ

水

相候

何れも美の心持をいふ御

呼牛示

又和やふしきくあつて

得る

うづめと歌のわやふも

所玉

うづめや能くも瑞き

尾跡

三ふとまへやあはれ

舌吐

うしに—あふれちて

卓尔

あふれやふ世の若く

信文

あふれやふ世の若く

能登
仙露

あふれやふ世の若く

天降
曾田

あふれやふ世の若く

才主

あふれやふ世の若く

可笑

あふれやふ世の若く

尾張
巨麻

あふれやふ世の若く

狸風

あふれやふ世の若く

おの女

あふれやふ世の若く

先取

あふれやふ世の若く

讀版
一巻

延々〜〜〜伸ぶ南に

深奥

東郷

稲垣と〜仕揚り 子産る集

大芝

ふしめや〜〜〜〜〜

鐵後

可園

ふね〜〜〜〜〜

里塚

咲〜〜〜〜〜

順里

落子田と〜〜〜〜

張危

夏〜〜〜〜〜

河以

戸〜〜〜〜〜

籠前

桂宇

目〜〜〜〜〜

梅後

栗山

竹〜〜〜〜〜

桃谷

月〜〜〜〜〜

伊豆

玉芝

葉〜〜〜〜〜

甲斐

桑徒

竹〜〜〜〜〜

古洗

む〜〜〜〜〜

石牙

田の〜〜〜〜〜

尺五

ふ〜〜〜〜〜

下野

桃秀

肥後

あはれはるるものなほ

雲

白くまをるるやまはるる

妹化

顔はるるをるるやまはるる

岷泉

初ふまむるるをるるやまはるる

竜宿

里代のまはるるやまはるる

七鳥

まはるるやまはるるやまはるる

梨音

まはるるやまはるるやまはるる

掬雪

まはるるやまはるるやまはるる

青山

まはるるやまはるるやまはるる

其麻

まはるるやまはるるやまはるる

林鳥

まはるるやまはるるやまはるる

其雨

まはるるやまはるるやまはるる

春海

まはるるやまはるるやまはるる

其夜

まはるるやまはるるやまはるる

其川

まはるるやまはるるやまはるる

五中

まはるるやまはるるやまはるる

文山

臨とあを京よりあむまのふ

个也

[illegible]

春嬌

夏如邪子乃人等

五上

ふくろふくろふくろふくろふくろ

趙彥

孝子 馬子 王 農 夕 瑞

如
竹

五以他方怪案續表

崔志

月
空
心
吟
心
吟
心
吟

支頤

薩々々々々々々々々々

都貢

平心信之可也

菊石

土庫
鹽
之
舟
之
明

野
紅

凡尔二石河之野田

斗 拙

刻々唯々々々々々々々々々

里棠

大元永昌
集行本
印
子
子

५५

王公大臣

王藍

麻刈や 谷ふり ちんちん 水の巻

晉
弥

三石記

謝大

麻刈や曲る野おのの腰そり

五柳 青湖

伸るゝそにそけす敷不角を

一垂

剥るゝ借授のゝぬ赤子る

可成

給ふゝるゝおや赤く産ふ

可音

瓜島や腹のそあも 枕ち

新 其言

麻えゝ赤人み似るや田そる

新 運河

みゝ花やみゝうゝゝ麻

上瓦 弄凡

うゝ草ふゝゝゝ草や田そる

川 和叶

水えのゝゝ新しきあゝ田柑け

不霜

あゝゝさ春種をそるる青田る

新 修福

竹残保たゝゝ新しき田そる

新 白里

踊るゝ赤もみゝゝゝ田そる

吉ん 五雲

噺るゝゝゝ新赤もみゝゝ

吉ん 春杏

任吉やゝ田そるゝゝ田そる

遠江 園竹

葉の合るやあゝゝゝ田そる

布留社中 垂極

芳なりゝゝゝ残るや初赤子

花子

回き若うしめひる田植
 ころけしきるは田くえさ
 瑞取の顔しきやみりて
 味うきしき二八の太角度
 ちやうと入るる田植
 ころのやねぬあやうさ
 海しきしきしきしき
 かんふきしきやまのき

永所
 梨
 梨
 竹
 其
 青
 菊
 研

